



吹田市総合計画 市民ワークショップニュース

NO. 3

発行：吹田市役所

日時：平成24年9月22日(土曜日)午後1時～午後5時
場所：千里ニュータウンプラザ2階千里市民センター大ホール
出席者：20名

プログラム

- 1 開会・本日の進め方の説明
- 2 活動紹介/第7回吹田まちづくり市民塾
「吹田名物すいたまん塾」 田中俊子氏
- 3 ワークショップ
- 4 発表・意見交換
- 5 まとめ/近畿大学総合社会学部 久隆浩教授
- 6 情報提供/「吹田市立市民公益活動センターの活動について」 柳瀬真佐子氏
- 7 終了



開会・本日の進め方の説明

本日がワークショップの最終日になります。前回テーマ毎に新しい班(仲間)をつくりました。今回は、その班の中で、今までに出されたアイデアや資源を組み合わせたり、また新たにアイデアを出したりしながら、どの様なことができるのか具体的に検討していきます。

まずは、吹田市の名物づくりに取り組まれている田中さんのお話を伺います。

活動紹介/第7回吹田まちづくり市民塾「吹田名物すいたまん塾」 田中俊子氏

私は、吹田の名物を作りたいという想いから「すいたまん」という饅頭を作り、PRするという活動をしています。吹田市には、ご存じの通りご当地グルメがありません。ご当地グルメがあったら、吹田市をPRしやすい、手土産に困らないだろうと。それに、自治会で集まって料理を作れば仲間が増えていくのじゃないのかと、そのようなことを考えて、みんなで作れるご当地グルメ「すいたまん」を考えました。



その「すいたまん」が、まちづくり市民塾に採用されて、実際に動き出すことになりました。料理好きが集まって、「おなかすいたプロジェクト」というのを立ち上げました。プロジェクトのミッション(使命・任務)は、「料理で地域貢献」。ビジョン(構想・未来像)は「お料理をする機会を作る」ということにしました。

市民塾に採用され、助成金が出ていたのは2010年の半ばから2012年の実質1年半ほどです。その間、公民館が無料で借りられたり、助成金でイベントの出店経費や、作業場として借りるキッチン代がまかなえるなど、活動がかなりやりやすかったです。2012年に助成金が終了し、ちょうどその頃に、使わせていただいていたレンタルキッチンも閉まってしまったこともあって、現在は「すいたまん」は、作っていません。

現在は、プロジェクトの原点に戻って、「料理をとおして地域貢献しよう」と様々なところで料理教室を開いています。市民塾に採用され、その間に活動している中で知り合った方々に、色々とイベントに呼んでいただいたりしています。

○ワークショップに参加された方から、以下の質問がありました。

・活動は何人でされているのですか。

→主軸になっているのは、3, 4人です。ただ、イベントなど人数が必要なときは、10人くらいは来ていただける状態です。

・継続的に活動していく秘訣は。

→空中分解しそうなきには、みんなで面白そうなイベントに出かけるなどしています。だいたい1か月に一回くらいは集まるようにして、なんとなく輪にいるぞという雰囲気になるようにしています。いつでも来てくれたらいいよ、というアットホームな感じが大事なのではないでしょうか。

ワークショップ

前回分かれた「交通」、「コミュニティー(公園)」、「大学」、「子育て」の4つの班で、改めて話し合いをしました。

【交通】 大坪さん、小濱さん、柴田(佳)さん、三木さん、匿名希望の方1名

「交通」をテーマに、万博をもっと活用するため JR 吹田駅からバスを走らせるなどして、万博を中心として吹田を元気にする方法が提案されました。

テーマ:「そうだ、万博への交通づくり」

○万博の入口を吹田に

- ・JR吹田駅から直行バスを出して、吹田=万博のイメージを定着させる。
- ・吹田駅周辺も賑やかにする。

○万博行きバスで行きやすく

- ・循環バスを走らせるなど、公共交通を便利にして人の流れをつくる。

○万博を知ろう

- ・宣伝等により万博のことを知る機会を増やす。
- ・万博に行くきっかけにするためのイベントを行う。
スポーツイベントを開催して認知度アップ/自然文化園で、四季の花見を開催

○万博の集客アップ

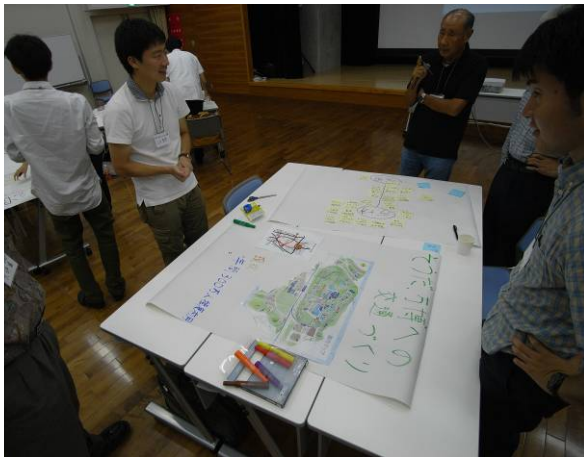
- ・吹田市民フリーパス配布して、万博に入りやすくする。
- ・スマートフォンでスタンプラリーなど、若い人も気軽に参加できる工夫をする。

○いろんなスポーツ施設の充実

- ・施設どうしが連携して、より盛り上がるようにすることも大事。
- ・万博のスポーツ施設が広く知られるよう、協力してPRする。

○J1ガンバを市民のクラブに

- ・ガンバ大阪が吹田市民のクラブになるよう盛り上げる。



【コミュニティ(公園)】 秋山さん、東末さん、信川さん、樋口さん、普久原さん

江坂公園をモデルとして取り上げ、公園で何をしたいか、何をすれば楽しく盛り上がるのかを話し合いました。

テーマ：

「江坂公園プロデュース～江坂にK.O.I.～」江坂に来れば何かが変わる

○様々なイベントの開催

映画祭、ジャズライブ、ベリーダンス、朗読会など。

○里親花壇

- ・地域の住人で、公園周りの花壇を維持管理する。
- ・野菜を育てたりできるとおもしろい。

○ワンコインバル

- ・気軽にお酒を飲める場所をつくって、夜も公園に来てもらう。

○子どもの紙芝居、昔遊び

- ・江坂公園内の図書館を利用して紙芝居をするなど、子どもが集まれる場所を。

○警察官と語らナイト

- ・公園のところにある交番の警察官と地域の話をするなど、交流してみる。

恋：恋する
来い：おいで
濃い：濃い時間を
乞い：何かを求める
請い：自分を表現



【子育て】田中さん、春貴さん、榊田さん、山中さん

実際に子どもを持つ親として、子育てしやすいまちとはどのようなまちかを考え、10箇条にまとめました。

テーマ：「子育てしやすいまち 10箇条」

- ①交通アクセス便利な郊外。
- ②車が無くても買い物便利。お店が沢山。子どもと一緒に買い物ができる。
- ③緑が沢山、お散歩スポット沢山。(身近に楽しめて、ウォーキング・ランニングで健康に)
- ④静かで落ち着いた街。(おじいちゃんおばあちゃんが多いから、騒がしくなくてゆったり)
- ⑤土日祝のイベント多数。(家族でお出かけも近所で楽しい。
(子どもは小さくて遠くまで行けなくても、リフレッシュ。)
- ⑥職場が近くて便利。帰宅早くて奥さんよろこぶ。
- ⑦親の近くはやっぱり安心。
- ⑧子育て世代が多い。(年間2,000組以上の夫婦が誕生。)
- ⑨保育・学童を充実させようとしている。
- ⑩病気になっても安心。(小児科、病院医療費最大500円。)



【大学】尾崎さん、木下さん、小林さん、柴田(好)さん、宗さん、中川さん

「大学」をテーマにした班では、大学が多いという吹田の特長を活かして、地域全体で学び合えないか検討しました。

テーマ：「まち全体が吹田大学」

【目的】

- 人の活性化は、吹田の活性化
 - ・学びは人を生き活きさせる。健康で楽しく長生きできるまちにする。
- 人を育む吹田
 - ・色んな考え方を認め合える。話し合う、話を聞く機会をつくる。
 - ・知りたいことを、すぐ聞ける関係をつくる。
 - ・考え方の基本を伝える。例えば、「就職」については「生き方」を伝える。
- 産学官連携といえば吹田

- ・ 中小企業の研修を大学でする。
- ・ マネジメントを教える企業の大学を作る。

【吹田ならではの背景】

○豊富な人の資源

- ・ 誰からでも学べる。若い人でも先生になれる。

○大学生のエネルギー

【手段・いろいろなアイデア】

○地域の人と顔の見える関係づくり。そのきっかけとなる場＝吹田大学。どこでもキャンパス(公園、お店、道)。例えば、飲み屋も。

○仕事がなかったら、作ればいいベンチャービジネス。インターンシップで企業と学生をつなげて、学生の学びの場に。

○インターネットなど、人と人をつなぐ仕組み。「調べれば1時間、聞けば5分」で、誰かに尋ねられる環境をつくる。

○すいた民話、すいた弁アーカイブをつくる。



久隆浩先生（近畿大学総合社会学部教授）からコメント

クリストファー・アレグザンダーという著名な都市計画家がいますが、その人のパターンランゲージという考え方の中に、「ユニバーシティ イズ ア マーケット」という言葉があります。まさしく、「大学」のグループが提案された「商店街のような大学」のことです。まちの人と交流することで、まちの人が教えてくれる。まちの中で暮らすこと自体が、私は勉強だと思っています。

「交通」のグループの話ですが、この中で千里地域に住んでおられる人はいますか。万博の話が出ましたが、実は、万博は山田駅から歩いていけるんですね。千里地域からは歩けるんです。そういう様々な地域のことを知るためにも、地域間の心的な距離をなくすというのは重要だと思います。人の心のつながり作りにも、交通は大切だなと思いました。

「子育て」のグループでは、すでにあるものを10箇条にまとめました。現状をベースに発想されているので、非常に実現性が高いものだと思います。

「コミュニティー(公園)」のグループでは、江坂公園を取り上げていました。このグループの方には伝えましたが、実際に来週イベントがあるんですね。江坂の取り組みには実現の可能性があると思います。楽しいことはすぐにでもやってもらいたいですね。



4つとも共通していえることは、「誰がつなぐのか」ということです。大学とまちをつなぐ、万博と駅をつなぐ、人をつなぐ。つなぐ人というのが出てくれば、色々なものが実現していくんだと思います。つなぎ役に徹する人がいれば、色々乗っかかってくる人も出てくる。ここで、そういう市民活動をつなぐために取り組まれておられる団体を紹介します。

情報提供/「吹田市立市民公益活動センターの活動について」柳瀬真佐子氏

吹田市立市民公益活動センターのセンター長を務めます柳瀬と申します。皆さんの発表を、4つともすごく面白いなと思いました。夢物語で終わるのではなく、本当に出来るなと予感の内容だったと思います。

公益活動センターとして、こういう皆さんの想いを形にしていくお手伝いができたらなと思っています。センターでは、皆さんの活動を応援していくようなプログラムを多数用意しておりますし、これからも作っていかこうと思っています。

また、皆さんの活動を手伝うだけでなく、皆さんと一緒に活動を作り上げていく場だと思っていますので、是非沢山の方に足を運んでいただいて、市民活動を活発にしていければと思います。よろしく願いいたします。

あいさつ

今回のワークショップは、吹田市の総合計画の見直しというところから始まりました。このワークショップの中で、吹田市を元気にしていくヒントが色々あったな、と思います。頂いた様々な意見を盛り込んでいながら、これから総合計画をつくっていかこうと思っています。人と人とのつながりを大切にしながら、「無理なく楽しく」、こういうキーワードを意識して、計画の見直しに取り組んでいきます。

また、吹田市役所の他の部局と連携して、11月18日に市民フォーラムを開催します。関心のある方は是非お越しください。よろしく願いいたします。



●事務局・問い合わせ先
吹田市役所 行政経営部 企画政策室（総合計画担当）
Tel : 06-6384-1632
Mail : ks_sokei@city.suita.osaka.jp